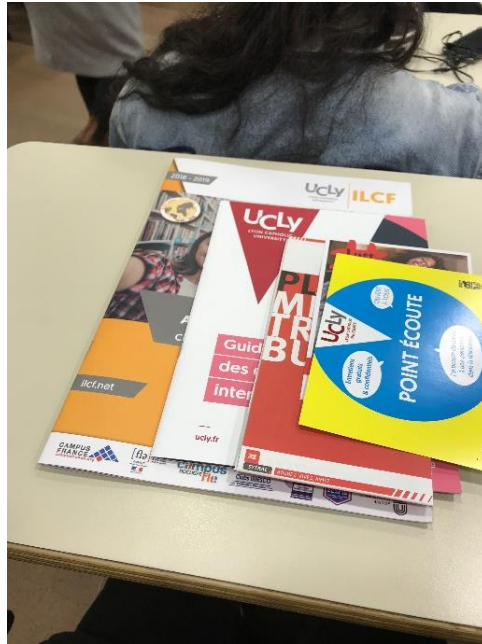




長期留学体験談（フランス語圏）



2019年度 リヨン・カトリック大学（フランス）

M.I.(国際交流学科 2019(R元)年度留学)

古くからヨーロッパの発展に重要な役割を果たした歴史のあるリヨンで、留学期間を送ることができたのはとても貴重な経験でした。語学力の向上を主な目的としながらも、フランスの歴史や文化の学びも深めることができ、同時に卒業論文を視野に入れながらテーマ探しやフィールドワークも行うことができました。

帰国までの DELF B2 取得と DALF C1 の受験を目標とし、継続することを意識しながら勉強に励みました。最終的には無事目標を達成することができましたが、振り返ると初めの三ヶ月に苦戦したことが印象に残っています。複雑な文法や単語の多さから改めてフランス語の難しさに直面しました。実際に話されるフランス語と学校でのフランス語ではスピードや会話が異なるので、学校外で話す環境作りをしていました。毎日課題があり、授業内容も多かったので授業後には友人と図書館で勉強をしていました。次第に慣れ、夏には集中講座を受けながら勉強を続けていましたが、後期に入りクラスが変わるとリスニングや読解の点数が伸び悩みました。一年の中でこのような波が何度ありましたが、その都度先生などにも相談しながら乗り越えることができました。

生活面においては、二年生の夏にパリでの短期留学を経験していたため問題なく留学期間を始めることができました。フランスには美しい景観や農業国ならではの食の豊かさが身近にあり、またエレベーターで乗り合わせた人との挨拶や、顔なじみの市場やお店ができた時に自然とコミュニケーションが生まれるような日本にはない人との距離感の近さを感じることができます。反面、週末のデモやストライキ、郊外と中心部の社会格差などを頻繁に目の当たりにします。これまで報道でしか知り得な

かった事を実際に肌で感じると、その問題について真剣に考えたり、日本の時事にさらに目を向けた
りするようになりました。

語学学習はマラソンのようである、と言われますがこの一年で身をもって体感しました。自分自身
で伸びを感じやすい時期があれば伸び悩む時期もあり、また長期間自分の計画に沿ってペースを保ち
継続することも不可欠でした。また、英語とは発音も文法も異なるフランス語を学びながら文化の全
く異なる地フランスで生活することは、それまでの自分の視野の狭さに気がつけた機会であり、日本
を客観視できるとても貴重な経験でした。これまでの発見と経験を今後の学びに生かしていきたいで
す。